

アルコール性肝硬変患者の *Vibrio vulnificus* 感染による壊死性筋膜炎の一症例

瀬戸内徳洲会病院（熊本大学医学部附属病院卒後研修プログラム、福岡徳洲会病院）廣岡重矢

症例はアルコール性肝硬変の 60 歳男性。2005 年 7 月 14 日にシャコの摂取した翌日から 39 度台の発熱と下痢、両下肢疼痛が出現したため *Vibrio vulnificus*（以下 *V.v.*）感染による壊死性筋膜炎の可能性にて 7 月 16 日 熊本大学医学部附属病院紹介入院となった。来院時ショック状態であり、代謝性アシドーシス、DIC を呈した。前医より empirical に MINO 投与開始され、ICU 管理にて抗生剤投与、CHDF、エンドトキシン吸着、壊死組織除去を行ったが救命には至らなかった。

発症者は肝硬変などの肝疾患、糖尿病を基礎疾患とした人に多く、また死亡率が高いため迅速な診断と治療が必要である。本疾患は決して rare ではなくアメリカ、韓国などでは肝硬変等の基礎疾患がある人の夏場の海産物摂取制限は普及している。汽水域は *V.v.* の増殖に適した環境であり、八代海沿岸や不知火海沿岸は好発地域であるが海に囲まれた我が国は到る所で発症する可能性がある。今回の研修医勉強会を通して啓蒙の機会と考え、昨年熊本大学医学部附属病院ローテイト中に経験した症例について報告する。